

# 新治小学校だより



ひびく心 はずむ体 見つめる目  
～新治のよさを持続して生かしながら、  
よりよい社会を創ろうとする子どもを育む学校を目指して～

令和5年度  
5月号  
令和5年4月28日



## 新治小学校創立 134 周年

校長 川島 広子

4月の下旬、今年も新治の「春」を探すために新治市民の森を歩きました。池ぶち広場周りの小さな小川にはたくさんのクロメダカが連なって泳いでいたり、西洋ミツバチが飛び回っていたりと、春の風景を森のあちらこちらで見かけました。散策中、白いタンポポを見つけたので驚いて調べてみると関東以西に生息する在来種の「シロタンポポ」でした。さらに歩いていくと、5年生がお借りしている田んぼの脇に町中でめったに見ることのできない在来種の関東タンポポが群れるように咲いていました。生物多様性が守られている貴重な新治の自然を大切に、子どもたちの学びにも生かしたいと思い、関東タンポポの綿毛を2年生と一緒に学級園に植えました。(写真と記事が裏面にあります。)



関東タンポポと西洋ミツバチ

さて、4月25日は新治小学校の創立記念日です。毎年、地域と学校の共存に感謝の気持ち、新治小学校に対する愛校心を育むために新治小学校にまつわる話をするのが慣例となっています。今年も「校歌で分かる新治小学校の歴史」というテーマで、校歌を歌い、歌詞の意味を紐解きながら新治小学校の歴史について話しました。



シロタンポポ (在来種)

新治小学校は1889年(明治22年)新治村立小学校旭学校として開校しました。当時は、現在の場所ではなく神明神社の隣、上杉憲清の居城である榎下城址を見下ろす場所に建てていたことは周知のとおりです。今NHKの朝ドラで「らんまん」が放映されていますが、先週は学制発布により全国の寺子屋が小学校に変わり、主人公が泣く泣く大好きだった寺子屋の恩師と別れるというストーリーでした。朝会でこのドラマの話に触れ、新治小学校ができる17年前までは、お金持ちや身分の高い人の子どもだけが寺子屋で勉強することができ、女の子は勉強することができなかったことを話すと「え～なんで…」という声が聞こえてきました。学校に通えなかったら、字を読むこともできなかったかもしれない、計算ができず買い物もできなかったかもしれない。そんな生活はどうだったろうねと投げかけ、子どもたちに想像させてみました。今年度から体育館に集合して朝会を行っており、初めて参加した1年生には難しい話だったかもしれません。でも、性別も貧富の差も関係なく誰もが当たり前で学校で勉強できることが、実は幸せであるということ、そしてそれが生きる力になっていることを感じてもらい、少しでも学びへの意欲を高めてもらいたいと思いこのような話をしました。

134年の歴史をもつ新治小学校には、愛校心をもち学校と子どもたちを大切に想ってくださる卒業生や地域の方が大勢おり、感謝に堪えません。これからも子どもたちが、学校や地域を誇りに思う心を育てていきます。

写真を見ると、1984年に立てた現校舎がとてもきれいに見えますが、築40年ともなるとあちらこちらにガタがきています。今年は、プールの甲羅干し塗り替え・強化ガラス入れ替え・多目的ホール空調工事、エレベーター交換、教室ロッカーのリメイクを行い、来年度は理科室や給食室の改修を行う予定です。子どもたちが安心して過ごせるように修繕や工事などの手入れを順次行っていきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。



1889年新治村立小学校旭学校



1954年校歌ができた頃の新治小学校



1984年現校舎完成